

オンライン授業で学生との信頼関係を構築する取り組み

科目名：基幹物理学 1A 演習

担当教員：坂口聡志 准教授（理学研究院）

形式：リアルタイム型

学年：基幹教育科目

人数：60人

ツール：Teams

評価方法：学期末試験、小テスト、レポート、出席

Q1. この授業で取り入れられた工夫について、改めて具体的に教えてください

- ・学生が質問をしやすいように、授業内外でいくつかのチャンネルを用意した（Teamsのチャット、音声、教員メール、Moodleフォーラムなど）
- ・学生からの質問に漏れなく迅速に対応した
- ・課題はしっかりと採点し、個々人の間違えたポイントに応じたコメントをつけて返却した
- ・冒頭の複数回の授業で、Moodleのクリッカーを用いてオンライン講義の形態に関する意見を収集した

Q2. 取り入れた結果、学生の反応はどうか

以上の工夫は、「先生は質問を歓迎し、しっかり答えてくれる」という実感を与え、信頼関係の構築に役立ったようです。また、様々なチャンネルを用意

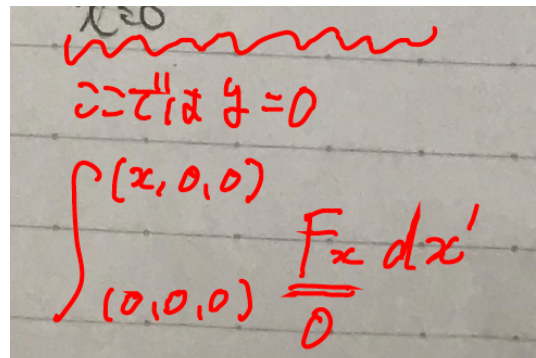
したことは、同級生の前での質問を躊躇う学生にとって、ハードルを下げる効果があったように思います。実際、徐々に多くの学生が質問をするようになり、結果的に例年の2倍ほどの質問が出たのは驚きでした。対面授業と変わらない方向性の、ある意味地道な努力ですが、オンライン授業では、より重要な意味を持ったように思います。質問を通じて教員と学生間の対話の機会を多く設けることは、一方的な教材の提供に留まらない、本来の大学の存在価値を保証することにも繋がると考えています。

Q3. 取り入れるために必要な準備

学生からの質問に対応し、課題をフィードバックするという部分が一番大変かと思います。今回、課題の採点に関してはTAにも協力をしてもらい、iPad+Apple Pencilで採点やフィードバックコメントを書き込んでもらいました。丁寧な回答や課題へのフィードバックには時間がかかりますが、やるだけの価値があると思います。TAの活用も視野に入れて取り入れられると良いように思います。

～インタビュー雑感～

対面授業の時と同様、オンライン授業でもまずは学生との信頼関係を構築することに注力された坂口先生の実践を聞いて、グッドプラクティスを探し回っていた私は頭をガツンと殴られたような衝撃がありました。この実践は、「言うは易し、行うは難し」の実践だと思いますが、誰もが取り入れられる、オーソドックスなオンライン授業方法として位置づけられるのではないかと思います。



課題へのコメント（赤字部分）

- ・Teamsの音声は十分聞き取れましたか？
- ・課題の提出方法に不安はありますか？
- ・問題の難易度はいかがでしたか？
- ・演習時間外に解くのにかけた時間は？
- ・時間内に小問はいくつ解けましたか？

クリッカーでの質問項目